

# リマスタリングとは

- 現代のテクノロジーを活かし 過去の作品をクリーンアップする
- ノイズリダクションでヒスノイズ、ハム、クリック、ドロップアウト、不適切な編集、歯擦音、マイクのポップ、マイクの配置が不適切なサウンドや古い録音技術によるサウンドを抑える。
- イコライザーでバランスを修正、音楽パーツの解像度が上がるようにオーディオ周波数を改善。
- コンプレッサーとピークリミッターを使用して、LOUDネスを改善し、こもりを無くし、高音と低音をマイルドにすることで全体的なサウンドを豊かにする。

★Adobe PremiereのMultiband Compressorで 古い音源を調整してみる。

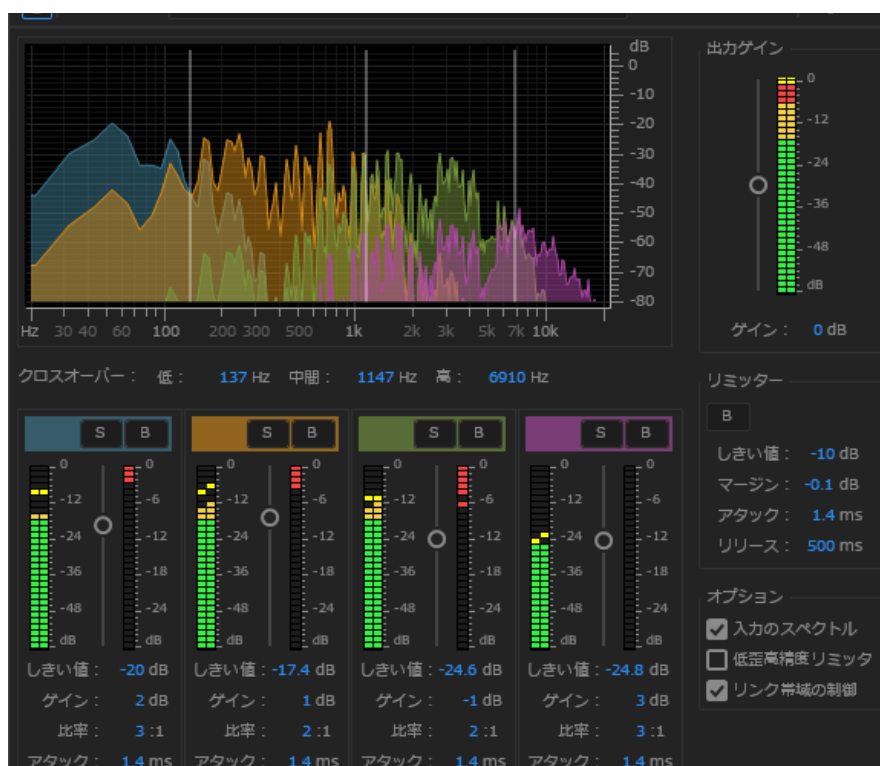
しきい値・・・コンプが効き始める音量。

ゲイン・・・圧縮後に ブーストさせる音量。

比率・・・3:1だとしきい値より3dB増えるごとに1dBを出力する。

アタック・・・しきい値を超えた時に圧縮するまでの時間。

リリース・・・しきい値を下回った時にコンプを維持させる時間



出力ゲイン・・・圧縮後の全体出力を再調整する。

クロスオーバー・・・各バンドの幅を決めるクロスオーバー周波数設定。

ソロボタン (S)・・・特定の周波数バンドのみをモニターする。

バイパスボタン (B)・・・エフェクト効果をOFFにしてモニターする。

入カスペクトル・・・入力信号の周波数スペクトルを表示させる。

低歪高精度リミッター・・・ハードリミッティングを適用させる。

リンクバンドコントロール・・・バンド間の相対的な差異を保持させる。

★Premiereのダイナミックにあるリミッターを追加して最終出力を調整する。



しきい値・・・

この値を超えた音量を完全にカットする。

リリース・・・音量がしきい値を下回ってから解除されるまでの時間。



ラウドネスメーターで  
トゥルーピークが  
0dBTPを超えないことを  
確認する。

持参スピーカー・・・バックロードホーン+アルファ（バスレフ付き）。

OM-MF519

- ・振動板材質：マグネシウム・アルミハイブリッドコーン
- ・インピーダンス： $4\Omega$
- ・最低共振周波数（ $F_0$ ）： $106.25\text{Hz}$
- ・出力音圧レベル（ $\text{SPL}_0$ ）： $85.6\text{dB}$
- ・定格入力（Power）： $7\text{W}$ （Nom）
- ・振動板投影面積（ $S_d$ ）： $0.0028\text{m}^2$
- ・等価柔軟性空気体積（ $V_{as}$ ）： $1.30\text{L}$
- ・振動系機械コンプライアンス（ $C_{ms}$ ）： $1.16\text{mm/N}$
- ・振動板質量（ $M_{md}$ ）： $1.85\text{g}$
- ・振動系可動等価質量（ $M_{ms}$ ）： $1.93\text{g}$
- ・力係数（BL）： $2.55\text{TM}$
- ・機械的共振度（ $Q_{ms}$ ）： $2.53$
- ・電氣的共振度（ $Q_{es}$ ）： $0.68$
- ・総合共振度（ $Q_{ts}$ ）： $0.53$
- ・クロスマックス（ $X_{max}$ ）： $3.5\text{mm}$ （1way）
- ・バッフル開口径： $\Phi 75\text{mm}$
- ・外径寸法： $\Phi 102.9\text{mm}$

内部構造の詳細資料・・・なし

2022年9月24日 秋葉